

<p>書名 『わたしの空と五・七・五』</p>	<p>著者 森埜こみち 出版年 2018年 出版社 講談社</p>
<p>中3の国語で、俳句の勉強をします。今年は図書館で、司書が集めた俳句の句材の参考になりそうな写真集や歳時記を見ながら、実際に俳句作りに挑戦しました。その後、図書館便りで「わたしの空と五・七・五」(森埜こみち・作 講談社)の本を紹介しました。</p> <p>しゃべりが苦手で自分に自信のない中1の女の子「空良」は、なかなかクラスで友だちが作れず、部活選びでも悩んでいます。そんな彼女が、下駄箱に入っていたチラシがきっかけで文芸部に入り、そこで「俳句」に出会います。そして初めての句会で、自分のもやもやした思いを、勇気を出して五・七・五に表現します。言葉を選び、磨き、みんなで共有する俳句の魅力が伝わってくるのと同時に、思春期の子どもたちが抱える悩みにも寄り添い、励ましてくれる物語です。</p>	